導入検討プラン 15 / 次の価値を探る

越境して得た見方を、次の商品へ

消費財・商品企画

地域・職種・商品領域を越える経験機会を設け、得た知見を事業で生かすとき。顧客の生活を知り、既存の分類を越えて試せる仕事を確かめます。

> 目指す仕事の状態
>
> 異なる経験を持つ人が、利用者の同じ行動から見方の違いを見つけ、価値の候補を試して次の提供内容を判断できる。

当社が担う仕事

01 同じ利用場面を見る

地域や職種の異なる人が同じ場面を観察し、見た事実と各自の解釈、想定外だったことを整理します。

02 見方の違いを案にする

違う解釈が生まれた理由をたどり、誰が何をできるようになるかを、試せる候補にします。

03 戻った仕事で確かめる

受入側と送り出し側の支援をそろえ、試作や小さな提供を利用者に試してもらい、結果を残します。

最初に試す一件

二つの職種など、経験の異なる担当者が同じ利用場面を見て、一つの提供案を帰任後の仕事で試します。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- 越境して得た知見を、帰任後のどの仕事で使えますか。
- 顧客の生活を知り、従来の商品分類を越えて試す機会はありますか。
- 受入側と送り出し側は、試行のために何を支えますか。

社内に残すもの

- 同じ利用場面から得た事実と見方の比較
- 提供価値の候補と試作・試行の計画
- 帰任後の仕事へ残す利用結果と知見

実践後に確かめること

- 観察で初めて分かった事実と変わった見方
- 試した案と、利用者が実際に行ったこと
- 帰任後の仕事へ使えた知見と必要な支援

一緒に進める人と役割

参加者 商品や顧客の担当	同じ利用場面を観察し、見方の違いから案をつくって試します。
受入側 送り出し側の上司	観察と帰任後の実践機会、使う時間と意思決定を支えます。
当社	事実と解釈の整理、案の比較、経験を次の仕事へ移す設計を支えます。

実施条件と、役割の範囲

観察する相手と利用場面を選び、帰任後に試す仕事を受入側・送り出し側で用意します。商品の専門開発と事業判断は担当部門が担います。経験した感想に加え、試した内容と利用の事実を確認します。

支援を組み立てる根拠

観察から価値を探る知見と、経験を異なる仕事で使い直す設計を用います。商品化と採算の判断は別途確かめます。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

公開情報調査（2026年11月1日）から構成した検討案。

詳細を見る